

ローラン・ネイ 講演会

# Freedom of form finding

日時 2008.11.12 Wed 11:00-12:00

会場 東京大学工学部 1号館 15号講義室



"Footbridge of Knobke"  
Ney&Partners  
Photo.

世話人 藤野 陽三 電話 03-5841-6095  
連絡先 東京大学 社会基盤学専攻 橋梁研究室 横山 (秘書) yokoyama@bridge.t.u-tokyo.ac.jp

03-5841-6098



## ローラン・ネイ 講演会

「かたち」とは？」という建築、土木に限らず創造する上での根源的な問いに、構造家として取り組むベルギーの構造家、ローラン・ネイ氏。建築家、アーティストとの協働にとどまらず、自身の事務所ですら意匠から構造まで手がける。事務所は、40名を超えるスタッフのチームからなり、エンジニア、建築家、エンジニアアーキテクト、3Dモデラーなど多様な顔ぶれで構成されている。本講演では、歩道橋、キャノピーなど土木的なプロジェクトを中心に、構造家としての「かたち」に関する思考を辿りながら、「Freedom of form finding」と題して講演いただく。

## Freedom of form finding

私たちのアプローチは、常に実用本位である。問題点を理解し、その上で全体のアイデアを練る。もっとも重要なのは、そのアイデアを現実（かたち）に結実させることにある。現実世界では対極にある両者を、新たなエンジニアリングのアイデアで橋渡しする。このプロセスを通じて、プロジェクトの根幹となる一枚の絵が描かれる。これらの過程で欠くことが出来ないのが、的確な「かたち」の探求と、様々な境界条件を一つに統合し決定された厳密な幾何学である

エンジニアリングと建築は、どちらも「デザイン」でありながら、根本的に異なる視点を持っている。両者は対立しがちだが、私たちは、「かたち」を曖昧なものではなく、構造最適解として、彫刻的な塊ではなく、境界線上で自己決定された幾何学の産物として捉える。そうすることで、「かたち」は、単なる空間的な見せ物ではない、首尾一貫した構造と建築の融合として具現化する。

私たちにとっては、ハイテク、ミニマル、有機的といった建築用語は無意味なだけでなく、有用ではない。スタイルは重力を相殺しないからだ。個々のプロジェクトからは、対極にある直感的思考と構造解析に基づく、それぞれの新しい視点を見いだすことが出来るだろう。私たちの仕事は、ハイテクではなく、ハイ・エンジニアリングである。

## ローラン・ネイ Laurent Ney

1964年フランス・ティオンヴィル生まれ。リエージュ大学で土木工学を修めた後、ルネ・グレイシュ構造事務所に勤務。1996年ネイ&パートナーズをブリュッセルに設立。建築と土木構造物のエンジニアとして多数のプロジェクトを手がける。2005年、建築家クリス・ポールセンとTHVネイ・ポールセン社を立ち上げ、共同事業を開始。最近の仕事は、アントワープ環状線（斜張橋を含む全長2.2キロ）、クノッケ歩道橋、カレッジブリッジ、ティーン歩道橋、アントワープ北駅歩道橋、Alden Biesen（開閉式膜構造）、Tachkemoniキャノピーほか。



"Spoor Noord Bridge"  
Ney&Partners  
Photo. coreconcept

"Tachkemoni Canopy"  
Arch. Poulissen  
Eng. Ney&Partners  
photo. Jean-Luc Deru

"Alden Biesen"  
Ney&Partners  
Photo. Jean-Luc Deru

"Kiel canopy"  
Arch. B-architecten, Stramien  
Eng. Ney&Partners  
Photo. Jean-Luc Deru

"Footbridge Tervuren"  
Arch. Blondel/ Han  
Eng. Ney&Partners  
Photo. Jean-Luc Deru